

講義名	教養総合（世界の中の日本）		
科目区分	教養総合		
担当教員	藤原 喜美子		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要			
<p>この授業の目的は、世界の中における日本の特質を捉えるために、様々な視野で検討することにある。今、世界はめまぐるしく動き、地球規模で展開している。そこで、この授業では、特に日本が位置するアジア地域に注目し、アジアの国の特色を取り上げながら、日本との関連性を紹介する。また、新聞記事を紹介しながら、今の日本に起きている事柄や日本の特性を検討していきたい。</p>			

到達目標			
-------------	--	--	--

授業で紹介した国の特性（歴史、文化など）を理解した上で、日本がどのような国であるのか、自分の言葉で表現できるようになる。			
--	--	--	--

提出課題			
-------------	--	--	--

<p>配布資料で学んだことや感想・考えについて、毎回、レポートとして提出してもらおう。 ①代替授業（遠隔授業）の期間中は、RYUKA Portalの教務掲示でレポート課題を連絡する。各回、レポート（感想文や授業の確認内容）をRYUKA Portalから提出してもらおう。 ②今後、教室で授業が開始された時には、毎回、授業内にレポート課題を提出してもらおう。</p>			
--	--	--	--

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
----------------------------------	--	--	--

授業内容に関する感想文は、提出後に授業などで、日本の地域性を考えるための一つの事例として紹介する。			
---	--	--	--

評価の基準			
--------------	--	--	--

毎回の授業で記入してもらった課題のレポート（平常点）により評価する。			
------------------------------------	--	--	--

履修にあたっての注意・助言他			
-----------------------	--	--	--

教室内での私語など、受講態度が好ましくない者には退室を求めることがある。			
--------------------------------------	--	--	--

教科書	
------------	--

・ 使用しない	
---------	--

プリント資料及び参考文献	
---------------------	--

<p><プリント資料> 各回、プリント資料を配布する。 ※資料を無くさないようにすること。 <参考文献> 適宜紹介する。</p>	
--	--

授業計画	
-------------	--

回	授業計画
1	アジアの中の日本①「オータム」
2	世界の中の日本とは
3	アジアの中の日本②「インド」
4	アジアの中の日本③「タイ」
5	アジアの中の日本④「日本」日本の国立公園：伊勢志摩
6	アジアの中の日本⑤「日本」世界文化遺産：富士山
7	アジアの中の日本⑥「日本」世界文化遺産：石見银山遺跡
8	アジアの中の日本⑦「日本」無形文化遺産：和食
9	アジアの中の日本⑧「日本」無形文化遺産：和紙
10	アジアの中の日本⑨「日本」日本遺産を知る
11	アジアの中の日本⑩「日本」日本遺産：日本茶（京都の宇治茶）
12	アジアの中の日本⑪「日本」日本遺産：飛騨匠の技
13	アジアの中の日本⑫「日本」日本の伝統的工芸品：堺打刃物
14	アジアの中の日本⑬「日本」オリンピック・パラリンピック
15	アジアの中の日本⑭「日本」まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）	
--------------------------	--

	ア：PBL（課題解決型学習）
<input type="radio"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間	
--------------------------------------	--

<p>予習…次の授業範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、キーワードなどを書きとどめておく。各回の講義の最後でも、翌週の授業の内容を紹介する。また、そのテーマについて、翌週までに興味のある事柄を1つ調べる（約1時間）。 復習…授業終了時、その日の授業内容を確認しながら、内容のまとめや内容に関わる感想文を出席カードに記入する。また、各自で、その日の授業の要点（キーワードやポイント）等を確認する（約1時間）。</p>	
---	--

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
-------------------------------	--

この授業は、プリントを用いて進める。また、毎回、受講生が各自で自らの考えを整理し、用紙に記入する時間を設ける。	
---	--

実務経験の有無及び活用	
--------------------	--

実務経験あり。授業担当者は民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務の実務経験を有しており、その実務経験を活用し、地域の特性を紹介しながら授業を行う。	
--	--

備考	
-----------	--

日本について、まずは各自の身近な事柄から関心を持ってもらいたい。そして、「各自が考える日本の魅力」を探る機会にしてもらいたいと思う。	
--	--